

平成 27 年度 新たな木材需要創出総合プロジェクト

CLT等新たな製品・技術の開発・普及事業

「中高層建築物等の担い手育成事業」

## 成果報告書

平成 28 年 3 月 25 日

一般社団法人 木を活かす建築推進協議会



## 目 次

1. 木造建築物の担い手育成の現状と課題	1
2. 木構造設計の地域リーダー育成事業	3
2-1. 木構造設計の地域リーダー育成委員会	4
2-2. 日程及びカリキュラム	6
2-3. 木構造設計地域リーダー研修会開催概要	7
2-4. 木構造設計地域リーダーによる地域木造検討会開催概要	25
2-5. 木構造設計の地域リーダー活用の今後に向けて	34
3. 木造建築物に係る担い手（学生）育成連続講座	35
3-1. 木材・木造建築物に係る担い手（学生）育成連続講座委員会	36
3-2. 各地域における木材・木造建築物に係る連続講座開催概要	38
3-3. 木材・木造建築物に掛かる連続講座アンケート結果	44
3-4. アンケートと同時に行った木力検定の結果	46
3-5. 木材・木造建築に掛かる担い手育成連続講座の今後に向けて	48
4. 木を活かす学生課題コンペティション	49
4-1. 木を活かす学生課題コンペティションの目的	49
4-2. 応募作品	49
4-3. 木を活かす学生課題コンペティション審査	50
5. 情報提供シンポジウムと成果報告会	54
5-1. 木構造設計の地域リーダー育成事業成果報告会	54
5-2. 木材・木造建築に掛かる連続講座事業成果報告会	55

## 1. 木造建築物の担い手育成の現状と課題

### (1) 中大規模木造建築物の現状と課題

1987年の建築基準法の改正により1990年代には、大規模木造建築の走りとなった多くの木造ドーム建築が造られた。当初は、国産大断面集成材の技術も未成熟であったため、外国産材を利用したものであったが、徐々に国産材、地域材へと広がりを見せた。

しかし、その後ドーム需要が一段落すると大型木造はびたりと鳴りを潜め、これらの需要を当て込んだ大断面集成材工場は、しばらく青息吐息の状況に追い込まれた。また、その技術は、大手ゼネコン等を中心とした技術であったために、その技術がすそ野の広い一般建築業界に流布することもなく木造ブームとして終わった。

2010年に公共建築物等木材利用促進法が施行され5年が経過し、首都圏に越谷ウッドスクエア、春日部東部地域振興ふれあい拠点施設、横浜サウスウッドなどが、地方においても静岡草薙体育館、大分県立美術館などの新たな大型木造建築物が登場している。しかし、その多くは不利となるコスト面を補助金によりカバーされたものであり、大手ゼネコンやメーカー系の技術によるものであった。

一方で、紫波町のオガールプラザのように、技術支援を受けた設計事務所と地元建設会社によるものや、一般流通LVL材と既往の接合技術を組合せ大スパンでのローコストを実現した日新の木材倉庫棟、設計者と工務店のコラボで実現した北沢建築工場、3,000棟を超えるメンブレン型耐火木造など、技術的な普及が進めば、一般の設計事務所や建設会社が、活用できる事例や技術も少なくない。

2000年の建築基準法の仕様規定化を経て、また、木造三階建学校の実大実験も終了し防耐火に関する告示が出そろった現在、1990年代の木造ドーム建築のような一過性のブームとして今日の木造の動きを終わらせないために、日本各地の一般建築業界においてRC造と同様に中大規模木造に取り組める設計や施工の技術を浸透させていくことが望まれている。

### (2) 木造建築物の担い手育成の現状と課題

戦後、RC造やS造の普及に向けて大学等の高等教育が担ってきた役割は非常に大きい。今後の中大規模木造建築の推進のためには、木材・木造建築に係るしっかりとした基礎を学ぶ高等教育の場が必要とされているが、しかし、今日の高等教育の場では、制度上、一級建築士の資格取得のためのRC造やS造の教育に主眼が置かれ、木造の基本となる「木質構造」や「木質材料」の講義をもつ大学やその専門教員を要する大学は、非常に少ないのが現状である。



現在の木造や木質構造の実務に関わっている技術者は、社会に出てから主に木造住宅の設計や木材流通・加工の仕事に携わる中で、自ら学んできた者がほとんどと言っても過言ではない。その中から、中大規模木造建築の設計機会を得て試行錯誤の中で実現させてきた技術者がいるが、その数は少ない。また、さらに上位の大学院に学びその技術者となろうとしている者もいるが、その数は、極めて少ないのが現状となっている。

このように、これまでの中大規模木造建築は、ごく少数の研究者や技術者、メーカー・ゼネコン系の技術者に支えられて実現してきた。

この研究者や技術者の間で危惧されているのは、その成果に至る過程となる設計プロセスなどの木造技術が、地域の設計者や一般建築業界まで普及せず、木造が RC 造・S 造と同等の立場を持ち得る前に木造ブームとして衰退するのではないかということである。

したがって、今日の中大規模木造建築をブームとして終わらせないためには、日本各地の一般建築業界において、RC 造と同様に中大規模木造に取り組める技術者を育成し、その技術を浸透させていくことと、木材・木造建築について、社会人比べて学ぶ機会が少ないというより、現状として、ほとんど学ぶ機会を持たない大学等の高等教育において、組織的にかつ継続的に教育を行い次世代の担い手を育成していくことが必要となっている。

## 2. 木構造設計の地域リーダー育成事業

平成26年度から取り組んでいる木構造設計技術者研修会は、RC造等について手計算で許容応力度計算ができる構造設計者（そのほとんどが構造一級建築士）向けに、高度な木構造設計の地域リーダーを育成するために開催したもので、東京・大阪・福岡の3会場で6日間に渡り行い、20都府県の44人が受講した。（H26）

この成果は、早速現れ、日本建築構造技術者協会（JSCA）は平成27年度の行動目標に木構造設計者の育成を掲げると共に、長野県建築士会では、育成した地域リーダーが、講師となり地域の構造設計者向けに同様の講習会を開くこととなるなど広がりを見せている。

同じく平成26年度に取り組んだ防耐火設計技術者研修会は、地域の指導的な立場となる確認審査機関や設計者に向けて行い、防耐火に係る法規がどのように作られて来たか、その目指している性能はどのようなものなのかなど、木造の防耐火の基本的な部分から今後の準耐火の告示となる内容などについて研修を行い14人の地域リーダーを育成した。

今年度は、構造設計地域リーダー研修会の第2期として下図でまだ空白となっている東北・北海道、北陸・近畿、四国・山陰を主な対象として24道県の48名を対象に昨年同様6回講座を開催した。

開催場所については、東北は仙台、北陸は金沢、四国は高松において開催した。

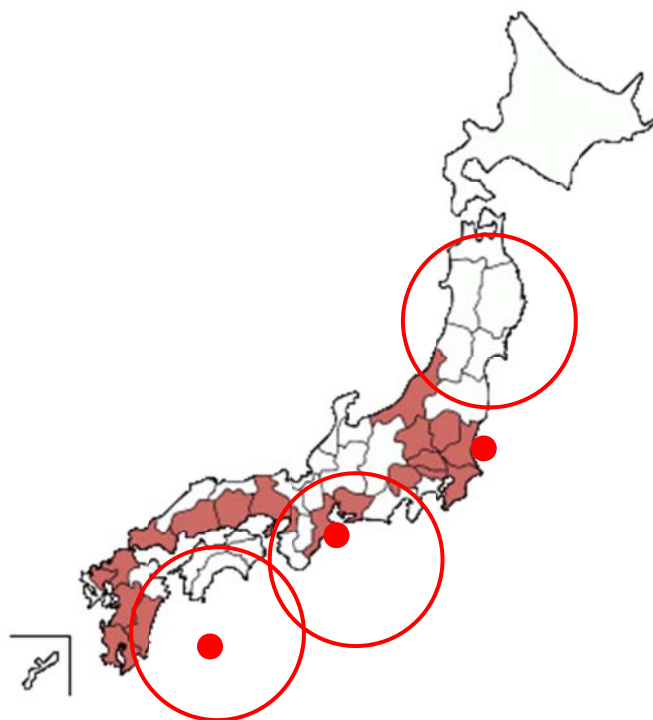
仙台：北海道・青森・岩手・秋田・山形・宮城・福島

金沢：静岡・神奈川・滋賀・京都・岐阜・福井・石川・富山・長野

高松：長崎・大分・高知・徳島・愛媛・香川・鳥取・島根・和歌山

講師陣については、昨年からの五十田先生、腰原先生、山辺先生、福山先生、原田先生に加え、稲山先生が他の講習会事業で講師が困難とこのことを受けて、新たに前JSCA会長の金箱氏と稲山研出身の福山氏に講師を務めて頂いた。

受講者については、JSCA会員や構造一級建築士を中心として各地域事務局からの推薦によりその人選を、適格性を含め講師陣が確認した。



## 2-1. 木構造設計の地域リーダー育成委員会

講習会の開催に当たって、講習会の内容、日時等について講師陣から構成される地域リーダー育成委員会により協議を行い決定された。

委員長 五十田 博 京都大学 生存圏研究所 教授  
委員 腰原 幹雄 東京大学 生産技術研究所 教授  
原田 浩司 木構造振興株式会社 研究員  
山辺 豊彦 山辺豊彦建築構造設計事務所 代表  
金箱 温春 金箱構造設計事務所 代表  
福山 弘 福山弘構造デザイン 代表

### (1) 第1回 構造設計の地域リーダー育成委員会

1) 日時 平成27年6月3日(水) 14:00~16:00

2) 場所 (社)日本治山治水協会 4階中会議室

#### 3) 出席者

委員長 五十田博

委員 腰原幹雄、原田浩司、山辺豊彦

行政 林野庁 木材産業課：服部浩治、西村紘明、

事務局 木を活かす建築推進協議会 永田 顕聖、松留 菜津子、櫻井 一也  
加来 照彦

#### 4) 議事

○ 今年度の中高層建築物等の担い手育成事業について

・研修会、地域木造検討委員会について

・各道府県2名を超える研修希望者への対応について

○ 地域リーダー研修会カリキュラム、講師について

・講師の追加、研修会カリキュラムについて

昨年までは、東大の稲山氏が講師並びに委員を務めていたが、他の講習会事業と重なり今年度辞退されたため、講師を務められる人選を委員で行い、金箱氏と福山氏に依頼することとなった。

○ 研修会開催日程の調整

・日程は基本的に金曜日、土曜日の2日間で行い。以下を仮決めとした。

第1回【金箱】第2回【原田】→未定

第3回【山辺】第4回【福山】→高松 11/13・14 金沢 11/27・28 仙台 12/4・5

第5回【五十田】第6回【腰原】→高松 11/27・28 金沢 12/11・12 仙台 12/18・19

(2) 第2回 構造設計の地域リーダー育成委員会

1) 日時 平成27年12月14日(月) 13:30～15:30

2) 場所 木を活かす建築推進協議会 会議室

3) 出席者

委員長 五十田博

委員 腰原幹雄、原田浩司、山辺豊彦、金箱温春、福山弘

行政 林野庁 木材産業課：服部浩治、西村紘明、

事務局 木を活かす建築推進協議会 永田 顕聖、松留 菜津子、櫻井 一也

4) 議事

○地域リーダー育成研修会 実施報告

○シンポジウムについて

○育成地域リーダーの活用・支援策について

## 2-2. 日程及びカリキュラム

### (1) 日程



開催	仙台		金沢		高松	
	日時	講師	日時	講師	日時	講師
1	11月6日	原田 浩司	10月16日	原田 浩司	10月9日	原田 浩司
2	11月7日	金箱 温春	10月17日	金箱 温春	10月10日	金箱 温春
3	12月4日	山辺 豊彦	10月23日	山辺 豊彦	11月13日	山辺 豊彦
4	12月5日	福山 弘	10月24日	福山 弘	11月14日	福山 弘
5	12月18日	五十田 博	12月11日	五十田 博	11月27日	五十田 博
6	12月19日	腰原 幹雄	12月12日	腰原 幹雄	11月28日	腰原 幹雄


### (2) カリキュラム

	時間	講師	テーマ	講義内容
第1回	13:30 ～ 17:00	原田	I. 木造建築物の設計 (木質材料)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○木質材料・木材の性質</li> <li>○耐久設計</li> <li>○許容応力度、基準強度 (<math>f_c</math>, <math>f_t</math>, <math>f_b</math>, <math>f_s</math>)</li> </ul>
第2回	9:30 ～ 13:00	金箱	II. 木造建築物の設計 (木質構造)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本1 構造計画</li> <li>○基本2 木質部材の特徴と構法</li> <li>○基本3 構造設計事例</li> </ul>
第3回	13:30 ～ 17:00	山辺	III. 木造建築物の設計 (壁量)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○構造計算ルート (ルート1からルート2)</li> <li>○計算の前提となる木質構造の特性</li> <li>○壁量計算</li> <li>○接合部 (半剛節モデル化手法とモデル化手法の違いによる結果の相違)</li> <li>○層間変形角<math>1/120</math>と床面の変形並びに層間変形角の具体の計算</li> <li>○たわみ計算におけるかけ梁並びにたわみの具体の計算</li> <li>○横架材の断面欠損による破壊並びに横架材の断面欠損と低減係数</li> <li>○柱中央に切り欠きがある場合の低減</li> <li>○構造計算時の燃え代設計</li> <li>○モデルの実例</li> <li>○パネ剛性のデータ (情報データベース、大断面マニュアル等)</li> </ul>
第4回	9:30 ～ 13:00	福山	IV. 木造建築物の設計 (構面の設計- 実験とモデル化)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○構面の設計</li> <li>○実際の変形・破壊</li> <li>○複合梁の破壊とモデル化</li> <li>○壁要素の解析モデルからの設計</li> <li>○構造計算書を追ってみる</li> </ul>
第5回	13:30 ～ 17:00	五十田	V. 木造建築物の設計 (接合部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○接合部の設計 <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐力壁周辺接合部の設計</li> <li>・N値計算</li> <li>・ボルト等による接合部の設計</li> <li>・ヨーロッパ型降伏理論</li> <li>・端部とボルト接合したブレース構造</li> </ul> </li> <li>○壁の許容せん断耐力の誘導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・剛性の計算、モデル化、方づえの計算、筋かいの<math>\beta</math>割増し</li> <li>・壁の許容せん断耐力の具体の計算例</li> </ul> </li> </ul>
第6回	9:30 ～ 13:00	腰原	VI. 木造建築物の設計 (部材設計)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部材設計 (トラス設計含む) <ul style="list-style-type: none"> <li>・許容応力度</li> <li>・座屈の検討</li> <li>・曲げに対する検討</li> <li>・引っ張りに対する検討</li> <li>・めり込みに対する検討</li> <li>・その他の事例</li> <li>・クリープ変形への考慮</li> <li>・接合部のせん断</li> </ul> </li> </ul>


## 2-3. 木構造設計地域リーダー研修会開催概要

### (1) 高松会場

第1回	
日時	平成27年10月9日 13:30~17:00
場所	サン・イレブン高松 2階研修室
講師	原田 浩司
講義内容	I. 木造建築物の設計（木質材料） ○木質材料・木材の性質 ○耐久設計 ○許容応力度、基準強度（ $f_c$ 、 $f_t$ 、 $f_b$ 、 $f_s$ ）
受講者	鳥取県：門脇 昇、井手添 誠、島根県：紅盛 宣彦、高橋 恵司 徳島県：中村 康一、宮本 昌司、香川県：中島 勝己、大西 秀行 愛媛県：豊田 恵介、柚山 一利、高知県：山本 幸延、片岡 重則 長崎県：岡崎 克喜、井上 隆、大分県：糸永 哲雄、橋迫 棟男 宮崎県：萩元 一浩、鹿児島県：中村 数喜、沖縄県：水野和男
講義風景	 


第2回	
日時	平成27年10月10日 9:30~13:00
場所	サン・イレブン高松 2階研修室
講師	金箱 温春
講義内容	<p>II. 木造建築物の設計（木質構造）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本1 構造計画</li> <li>○基本2 木質部材の特徴と構法</li> <li>○基本3 構造設計事例</li> </ul>
受講者	<p>鳥取県：門脇 昇、井手添 誠、島根県：紅盛 宣彦、高橋 恵司  徳島県：中村 康一、宮本 昌司、香川県：中島 勝己、大西 秀行  愛媛県：豊田 恵介、柚山 一利、高知県：山本 幸延、片岡 重則  長崎県：岡崎 克喜、井上 隆、大分県：糸永 哲雄、橋迫 棟男  宮崎県：萩元 一浩、鹿児島県：中村 数喜、沖縄県：水野和男</p>
講義風景	




第3回	
日時	平成27年11月13日 13:30~17:00
場所	サン・イレブン高松 2階研修室
講師	山辺 豊彦
講義内容	<p>Ⅲ. 木造建築物の設計（壁量）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○構造計算ルート（ルート1からルート2）</li> <li>○計算の前提となる木質構造の特性 ○壁量計算</li> <li>○接合部（半剛節モデル化手法とモデル化の違いによる相違）</li> <li>○層間変形角 1/120 と床面の変形並びに層間変形角の具体の計算</li> <li>○たわみ計算におけるかけ梁並びにたわみの具体の計算等</li> </ul>
受講者	<p>鳥取県：門脇 昇、井手添 誠、島根県：紅盛 宣彦、高橋 恵司  徳島県：中村 康一、宮本 昌司、香川県：中島 勝己、大西 秀行  愛媛県：豊田 恵介、柚山 一利、高知県：山本 幸延、片岡 重則  長崎県：岡崎 克喜、井上 隆、大分県：糸永 哲雄、橋迫 棟男  宮崎県：萩元 一浩、鹿児島県：中村 数喜、沖縄県：水野和男</p>
講義風景	



第4回	
日時	平成27年11月14日 9:30~13:00
場所	サン・イレブン高松 2階研修室
講師	福山 弘
講義内容	IV. 木造建築物の設計（構面の設計-実験とモデル化） ○構面の設計 ○実際の変形・破壊 ○複合梁の破壊とモデル化 ○壁要素の解析モデルからの設計等
受講者	鳥取県：門脇 昇、井手添 誠、島根県：紅盛 宣彦、高橋 恵司 徳島県：中村 康一、宮本 昌司、香川県：中島 勝己、大西 秀行 愛媛県：豊田 恵介、柚山 一利、高知県：山本 幸延、片岡 重則 長崎県：岡崎 克喜、井上 隆、大分県：糸永 哲雄、橋迫 棟男 宮崎県：萩元 一浩、鹿児島県：中村 数喜、沖縄県：水野和男
講義風景	 


第5回	
日時	平成27年11月27日 13:30~17:00
場所	サン・イレブン高松 2階研修室
講師	五十田 博
講義内容	<p>V. 木造建築物の設計（接合部）</p> <p>○接合部の設計・耐力壁周辺接合部の設計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボルト等による接合部の設計</li> <li>・ヨーロッパ型降伏理論</li> <li>・端部とボルト接合したブレース構造</li> </ul> <p>○壁の許容せん断耐力の誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・剛性の計算、モデル化、方づえの計算、筋かいの<math>\beta</math>割増し等</li> </ul>
受講者	<p>鳥取県：門脇 昇、井手添 誠、島根県：紅盛 宣彦、高橋 恵司  徳島県：中村 康一、宮本 昌司、香川県：中島 勝己、大西 秀行  愛媛県：豊田 恵介、柚山 一利、高知県：山本 幸延、片岡 重則  長崎県：岡崎 克喜、井上 隆、大分県：糸永 哲雄、橋迫 棟男  宮崎県：萩元 一浩、鹿児島県：中村 数喜、沖縄県：水野和男</p>
講義状況	



第6回	
日時	平成27年11月28日 9:30~13:00
場所	サン・イレブン高松 2階研修室
講師	腰原 幹雄
講義内容	<p>VI. 木造建築物の設計（部材設計）  ○部材設計（トラス設計含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・許容応力度</li> <li>・座屈の検討</li> <li>・曲げに対する検討</li> <li>・引っ張りに対する検討</li> <li>・めり込みに対する検討</li> <li>・クリープ変形への考慮</li> <li>・接合部のせん断等</li> </ul>
受講者	<p>鳥取県：門脇 昇、井手添 誠、島根県：紅盛 宣彦、高橋 恵司  徳島県：中村 康一、宮本 昌司、香川県：中島 勝己、大西 秀行  愛媛県：豊田 恵介、柚山 一利、高知県：山本 幸延、片岡 重則  長崎県：岡崎 克喜、井上 隆、大分県：糸永 哲雄、橋迫 棟男  宮崎県：萩元 一浩、鹿児島県：中村 数喜、沖縄県：水野和男</p>
講義風景	

(2) 金沢会場

第1回	
日時	平成27年10月16日 13:30~17:00
場所	石川県文教会館 2階202会議室
講師	原田 浩司
講義内容	I. 木造建築物の設計 (木質材料) ○木質材料・木材の性質 ○耐久設計 ○許容応力度、基準強度 (fc、ft、fb、fs)
受講者	神奈川県：叶野 聡、唐戸 弘樹、富山県：岡山 斎、上田 邦成 石川県：竹田 法男、宮坂 智信、福井県：藤田 哲朗、姉崎 哲也 岐阜県：渡邊 須美樹、野口 浩春、静岡県：足立 英二、高橋 俊也 滋賀県：井上 廣之、土野池 正義、京都府：佐久間 譲、橋本 一郎 奈良県：大崎 修、中本 明、和歌山県：栗本 敦司
講義風景	



第2回	
日時	平成27年10月17日 9:30~13:00
場所	石川県文教会館 2階202会議室
講師	金箱 温春
講義内容	<p>II. 木造建築物の設計（木質構造）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本1 構造計画</li> <li>○基本2 木質部材の特徴と構法</li> <li>○基本3 構造設計事例</li> </ul>
受講者	<p>神奈川県：叶野 聡、唐戸 弘樹、富山県：岡山 斎、上田 邦成  石川県：竹田 法男、宮坂 智信、福井県：藤田 哲朗、姉崎 哲也  岐阜県：渡邊 須美樹、野口 浩春、静岡県：足立 英二、高橋 俊也  滋賀県：井上 廣之、土野池 正義、京都府：佐久間 譲、橋本 一郎  奈良県：大崎 修、中本 明、和歌山県：栗本 敦司</p>
講義風景	

第3回	
日時	平成27年10月23日 13:30~17:00
場所	ユースパルいしかわ 研修室
講師	山辺 豊彦
講義内容	<p>Ⅲ. 木造建築物の設計（壁量）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○構造計算ルート（ルート1からルート2）</li> <li>○計算の前提となる木質構造の特性 ○壁量計算</li> <li>○接合部（半剛節モデル化手法とモデル化の違いによる相違）</li> <li>○層間変形角 1/120 と床面の変形並びに層間変形角の具体の計算</li> <li>○たわみ計算におけるかけ梁並びにたわみの具体の計算等</li> </ul>
受講者	<p>神奈川県：叶野 聡、唐戸 弘樹、富山県：岡山 斎、上田 邦成  石川県：竹田 法男、宮坂 智信、福井県：藤田 哲朗、姉崎 哲也  岐阜県：渡邊 須美樹、野口 浩春、静岡県：足立 英二、高橋 俊也  滋賀県：井上 廣之、土野池 正義、京都府：佐久間 譲、橋本 一郎  奈良県：大崎 修、中本 明、和歌山県：栗本 敦司</p>
講義風景	 


第4回	
日時	平成27年10月24日 9:30~13:00
場所	ユースパルいしかわ 研修室
講師	福山 弘
講義内容	IV. 木造建築物の設計（構面の設計-実験とモデル化） ○構面の設計 ○実際の変形・破壊 ○複合梁の破壊とモデル化 ○壁要素の解析モデルからの設計等
受講者	神奈川県：叶野 聡、唐戸 弘樹、富山県：岡山 斎、上田 邦成 石川県：竹田 法男、宮坂 智信、福井県：藤田 哲朗、姉崎 哲也 岐阜県：渡邊 須美樹、野口 浩春、静岡県：足立 英二、高橋 俊也 滋賀県：井上 廣之、土野池 正義、京都府：佐久間 譲、橋本 一郎 奈良県：大崎 修、中本 明、和歌山県：栗本 敦司
講義風景	


第5回	
日時	平成27年12月11日 13:30~17:00
場所	金沢市文化ホール 3階第6会議室
講師	五十田 博
講義内容	<p>V. 木造建築物の設計（接合部）</p> <p>○接合部の設計・耐力壁周辺接合部の設計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボルト等による接合部の設計</li> <li>・ヨーロッパ型降伏理論</li> <li>・端部とボルト接合したブレース構造</li> </ul> <p>○壁の許容せん断耐力の誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・剛性の計算、モデル化、方づえの計算、筋かいの<math>\beta</math>割増し等</li> </ul>
受講者	<p>神奈川県：叶野 聡、唐戸 弘樹、富山県：岡山 斎、上田 邦成  石川県：竹田 法男、宮坂 智信、福井県：藤田 哲朗、姉崎 哲也  岐阜県：渡邊 須美樹、野口 浩春、静岡県：足立 英二、高橋 俊也  滋賀県：井上 廣之、土野池 正義、京都府：佐久間 譲、橋本 一郎  奈良県：大崎 修、中本 明、和歌山県：栗本 敦司</p>
講義状況	 




第6回	
日時	平成27年12月12日 9:30~13:00
場所	金沢市文化ホール 3階第6会議室
講師	腰原 幹雄
講義内容	<p>VI. 木造建築物の設計（部材設計）  ○部材設計（トラス設計含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・許容応力度</li> <li>・座屈の検討</li> <li>・曲げに対する検討</li> <li>・引っ張りに対する検討</li> <li>・めり込みに対する検討</li> <li>・クリープ変形への考慮</li> <li>・接合部のせん断等</li> </ul>
受講者	<p>神奈川県：叶野 聡、唐戸 弘樹、富山県：岡山 斎、上田 邦成  石川県：竹田 法男、宮坂 智信、福井県：藤田 哲朗、姉崎 哲也  岐阜県：渡邊 須美樹、野口 浩春、静岡県：足立 英二、高橋 俊也  滋賀県：井上 廣之、土野池 正義、京都府：佐久間 譲、橋本 一郎  奈良県：大崎 修、中本 明、和歌山県：栗本 敦司</p>
講義風景	



(3) 仙台会場


第1回	
日時	平成27年11月6日 13:30~17:00
場所	宮城県建設産業会館 4階第5会議室
講師	原田 浩司
講義内容	I. 木造建築物の設計 (木質材料) ○木質材料・木材の性質 ○耐久設計 ○許容応力度、基準強度 (fc、ft、fb、fs)
受講者	北海道：西濱 克也、伊藤 昭浩、加登 靖彦、小町 美穂 青森県：浜田 豊、岩手県：菅原 昭一、 宮城県：成田 諭、菅井 幸徳、渡部 恵一 秋田県：篠木 肇、原田 啓咲、山形県：鈴木 祐一、藪田 充彦 福島県：高野 正
講義風景	

第2回	
日時	平成27年11月7日 9:30~13:00
場所	宮城県建設産業会館 4階第5会議室
講師	金箱 温春
講義内容	<p>II. 木造建築物の設計（木質構造）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本1 構造計画</li> <li>○基本2 木質部材の特徴と構法</li> <li>○基本3 構造設計事例</li> </ul>
受講者	<p>北海道：西濱 克也、伊藤 昭浩、加登 靖彦、小町 美穂  青森県：浜田 豊、岩手県：菅原 昭一、  宮城県：成田 諭、菅井 幸徳、渡部 恵一  秋田県：篠木 肇、原田 啓咲、山形県：鈴木 祐一、薮田 充彦  福島県：高野 正</p>
講義風景	

第3回	
日時	平成27年12月4日 13:30~17:00
場所	フォレスト仙台 2階第5会議室
講師	山辺 豊彦
講義内容	<p>Ⅲ. 木造建築物の設計（壁量）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○構造計算ルート（ルート1からルート2）</li> <li>○計算の前提となる木質構造の特性 ○壁量計算</li> <li>○接合部（半剛節モデル化手法とモデル化の違いによる相違）</li> <li>○層間変形角 1/120 と床面の変形並びに層間変形角の具体の計算</li> <li>○たわみ計算におけるかけ梁並びにたわみの具体の計算等</li> </ul>
受講者	<p>北海道：西濱 克也、伊藤 昭浩、加登 靖彦、小町 美穂  青森県：浜田 豊、岩手県：菅原 昭一、  宮城県：成田 諭、菅井 幸徳、渡部 恵一  秋田県：篠木 肇、原田 啓咲、山形県：鈴木 祐一、薮田 充彦  福島県：高野 正</p>
講義風景	




第4回	
日時	平成27年12月5日 9:30~13:00
場所	フォレスト仙台 2階第5会議室
講師	福山 弘
講義内容	IV. 木造建築物の設計（構面の設計-実験とモデル化） ○構面の設計 ○実際の変形・破壊 ○複合梁の破壊とモデル化 ○壁要素の解析モデルからの設計等
受講者	北海道：西濱 克也、伊藤 昭浩、加登 靖彦、小町 美穂 青森県：浜田 豊、岩手県：菅原 昭一、 宮城県：成田 諭、菅井 幸徳、渡部 恵一 秋田県：篠木 肇、原田 啓咲、山形県：鈴木 祐一、薮田 充彦 福島県：高野 正
講義風景	 

第5回	
日時	平成27年12月18日 13:30~17:00
場所	フォレスト仙台 2階第1会議室
講師	五十田 博
講義内容	<p>V. 木造建築物の設計（接合部）</p> <p>○接合部の設計・耐力壁周辺接合部の設計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボルト等による接合部の設計</li> <li>・ヨーロッパ型降伏理論</li> <li>・端部とボルト接合したブレース構造</li> </ul> <p>○壁の許容せん断耐力の誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・剛性の計算、モデル化、方づえの計算、筋かいの<math>\beta</math>割増し等</li> </ul>
受講者	<p>北海道：西濱 克也、伊藤 昭浩、加登 靖彦、小町 美穂</p> <p>青森県：浜田 豊、岩手県：菅原 昭一、</p> <p>宮城県：成田 諭、菅井 幸徳、渡部 恵一</p> <p>秋田県：篠木 肇、原田 啓咲、山形県：鈴木 祐一、薮田 充彦</p> <p>福島県：高野 正</p>
講義状況	

第6回	
日時	平成27年12月19日 9:30~13:00
場所	フォレスト仙台 2階第1会議室
講師	腰原 幹雄
講義内容	<p>VI. 木造建築物の設計（部材設計）</p> <p>○部材設計（トラス設計含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・許容応力度</li> <li>・座屈の検討</li> <li>・曲げに対する検討</li> <li>・引っぱりに対する検討</li> <li>・めり込みに対する検討</li> <li>・クリープ変形への考慮</li> <li>・接合部のせん断等</li> </ul>
受講者	<p>北海道：西濱 克也、伊藤 昭浩、加登 靖彦、小町 美穂</p> <p>青森県：浜田 豊、岩手県：菅原 昭一、</p> <p>宮城県：成田 諭、菅井 幸徳、渡部 恵一</p> <p>秋田県：篠木 肇、原田 啓咲、山形県：鈴木 祐一、薮田 充彦</p> <p>福島県：高野 正</p>
講義風景	


## 2-4. 木構造設計地域リーダーによる地域木造検討会開催概要

### (1) 高松会場


第1回	
日時	平成27年10月9日 17:00~18:00
場所	サン・イレブン高松 2階研修室
発表者	鳥取県：門脇 昇、井手添 誠、島根県：紅盛 宣彦、高橋 恵司 徳島県：中村 康一、宮本 昌司
発表内容	各道府県における中大規模木造の現状（その1） ○道府県における中大規模木造の現状発表 ○全体による討議
受講者	鳥取県：門脇 昇、井手添 誠、島根県：紅盛 宣彦、高橋 恵司 徳島県：中村 康一、宮本 昌司、香川県：中島 勝己、大西 秀行 愛媛県：豊田 恵介、柚山 一利、高知県：山本 幸延、片岡 重則 長崎県：岡崎 克喜、井上 隆、大分県：糸永 哲雄、橋迫 棟男 宮崎県：萩元 一浩、鹿児島県：中村 数喜、沖縄県：水野和男
発表風景	



第2回	
日時	平成27年11月13日 17:00~18:00
場所	サン・イレブン高松 2階研修室
発表者	香川県：中島 勝己、大西 秀行、愛媛県：豊田 恵介、柚山 一利 高知県：山本 幸延、片岡 重則
発表内容	各道府県における中大規模木造の現状（その2） ○道府県における中大規模木造の現状発表 ○全体による討議
受講者	鳥取県：門脇 昇、井手添 誠、島根県：紅盛 宣彦、高橋 恵司 徳島県：中村 康一、宮本 昌司、香川県：中島 勝己、大西 秀行 愛媛県：豊田 恵介、柚山 一利、高知県：山本 幸延、片岡 重則 長崎県：岡崎 克喜、井上 隆、大分県：糸永 哲雄、橋迫 棟男 宮崎県：萩元 一浩、鹿児島県：中村 数喜、沖縄県：水野和男
発表風景	

第3回	
日時	平成27年11月27日 17:00~18:00
場所	サン・イレブン高松 2階研修室
発表者	長崎県：岡崎 克喜、井上 隆、大分県：糸永 哲雄、橋迫 棟男 宮崎県：萩元 一浩、鹿児島県：中村 数喜、沖縄県：水野和男
発表内容	各道府県における中大規模木造の現状（その3） ○道府県における中大規模木造の現状発表 ○全体による討議
受講者	鳥取県：門脇 昇、井手添 誠、島根県：紅盛 宣彦、高橋 恵司 徳島県：中村 康一、宮本 昌司、香川県：中島 勝己、大西 秀行 愛媛県：豊田 恵介、柚山 一利、高知県：山本 幸延、片岡 重則 長崎県：岡崎 克喜、井上 隆、大分県：糸永 哲雄、橋迫 棟男 宮崎県：萩元 一浩、鹿児島県：中村 数喜、沖縄県：水野和男
発表風景	

(2) 金沢会場


第1回	
日時	平成27年10月16日 17:00~18:00
場所	石川県文教会館 2階 202会議室
発表者	神奈川県：叶野 聡、唐戸 弘樹、富山県：岡山 斎、上田 邦成 石川県：竹田 法男、宮坂 智信
発表内容	各道府県における中大規模木造の現状（その1） ○道府県における中大規模木造の現状発表 ○全体による討議
受講者	神奈川県：叶野 聡、唐戸 弘樹、富山県：岡山 斎、上田 邦成 石川県：竹田 法男、宮坂 智信、福井県：藤田 哲朗、姉崎 哲也 岐阜県：渡邊 須美樹、野口 浩春、静岡県：足立 英二、高橋 俊也 滋賀県：井上 廣之、土野池 正義、京都府：佐久間 譲、橋本 一郎 奈良県：大崎 修、中本 明、和歌山県：栗本 敦司
発表風景	




第2回	
日時	平成27年10月23日 17:00~18:00
場所	ユースパルいしかわ 研修室1 (
発表者	福井県：藤田 哲朗、姉崎 哲也、岐阜県：渡邊 須美樹、野口 浩春 和歌山県：栗本 敦司
発表内容	各道府県における中大規模木造の現状 (その2) ○道府県における中大規模木造の現状発表 ○全体による討議
受講者	神奈川県：叶野 聡、唐戸 弘樹、富山県：岡山 斎、上田 邦成 石川県：竹田 法男、宮坂 智信、福井県：藤田 哲朗、姉崎 哲也 岐阜県：渡邊 須美樹、野口 浩春、静岡県：足立 英二、高橋 俊也 滋賀県：井上 廣之、土野池 正義、京都府：佐久間 譲、橋本 一郎 奈良県：大崎 修、中本 明、和歌山県：栗本 敦司
発表風景	  


第3回	
日時	平成27年12月11日 17:00~18:00
場所	金沢市文化ホール 3階第6会議室
発表者	静岡県：足立 英二、高橋 俊也、滋賀県：井上 廣之、土野池 正義 京都府：佐久間 譲、橋本 一郎、奈良県：大崎 修、中本 明
発表内容	各道府県における中大規模木造の現状（その3） ○道府県における中大規模木造の現状発表 ○全体による討議
受講者	神奈川県：叶野 聡、唐戸 弘樹、富山県：岡山 斎、上田 邦成 石川県：竹田 法男、宮坂 智信、福井県：藤田 哲朗、姉崎 哲也 岐阜県：渡邊 須美樹、野口 浩春、静岡県：足立 英二、高橋 俊也 滋賀県：井上 廣之、土野池 正義、京都府：佐久間 譲、橋本 一郎 奈良県：大崎 修、中本 明、和歌山県：栗本 敦司
発表風景	

(3) 仙台会場

第1回	
日時	平成27年11月6日 17:00~18:00
場所	宮城県建設産業会館 4階第5会議室
発表者	北海道：西濱 克也、伊藤 昭浩、加登 靖彦、小町 美穂 青森県：浜田 豊
発表内容	各道府県における中大規模木造の現状（その1） ○道府県における中大規模木造の現状発表 ○全体による討議
受講者	北海道：西濱 克也、伊藤 昭浩、加登 靖彦、小町 美穂 青森県：浜田 豊、岩手県：菅原 昭一、 宮城県：成田 諭、菅井 幸徳、渡部 恵一 秋田県：篠木 肇、原田 啓咲、山形県：鈴木 祐一、薮田 充彦 福島県：高野 正
発表風景	



第2回	
日時	平成27年12月4日 17:00~18:00
場所	フォレスト仙台 2階第5会議室
発表者	宮城県：成田 諭、菅井 幸徳、渡部 恵一 岩手県：菅原 昭一
発表内容	各道府県における中大規模木造の現状（その2） ○道府県における中大規模木造の現状発表 ○全体による討議
受講者	北海道：西濱 克也、伊藤 昭浩、加登 靖彦、小町 美穂 青森県：浜田 豊、岩手県：菅原 昭一、 宮城県：成田 諭、菅井 幸徳、渡部 恵一 秋田県：篠木 肇、原田 啓咲、山形県：鈴木 祐一、藪田 充彦 福島県：高野 正
発表風景	

第3回	
日時	平成27年12月18日 17:00~18:00
場所	フォレスト仙台 2階第1会議室
発表者	秋田県：篠木 肇、原田 啓咲、山形県：鈴木 祐一、薮田 充彦 福島県：高野 正
発表内容	各道府県における中大規模木造の現状（その3） ○道府県における中大規模木造の現状発表 ○全体による討議
受講者	北海道：西濱 克也、伊藤 昭浩、加登 靖彦、小町 美穂 青森県：浜田 豊、岩手県：菅原 昭一、 宮城県：成田 諭、菅井 幸徳、渡部 恵一 秋田県：篠木 肇、原田 啓咲、山形県：鈴木 祐一、薮田 充彦 福島県：高野 正
発表風景	



## 2-5. 木構造設計の地域リーダー活用の今後に向けて

第2回委員会で委員から出た意見等をまとめ、木構造設計の地域リーダー活用の今後に向けてとした。

### (1) 木活協木構造地域リーダーホームページの活用

- ・現状のホームページは、地域リーダーの名簿しか掲載されていないので、担い手リーダー研修の目的やどういうバックアップ体制があって、その最前線にこのリーダー達がいることを明確にしておく。会社名、電話番号、どういう人で、どういう研修をうけたか、問い合わせに対応できるようにしておく。

### (2) 情報提供とネットワークづくりに向けて

- ・自治体や意匠設計者からの問い合わせを想定して、窓口となる木活協は、構造設計者としてリストを紹介できるようにする。
- ・今後は地域で、製材・林産とのネットワーク構築が必要になるが、林産試験場は47都道府県全部にあるわけではないが、その技術者も高齢化しており、主だった方々があと5～6年で引退してしまうので、地域での木材の調達等に関して。この人達に活躍してもらえようような連携も必要となる。
- ・ただし建築的視点が欠けている場合があるので、木構造設計リーダーと連携して実務の役に立ってもらう必要がある。
- ・初めて中大規模の木造建築に取り組む人には、やはり接合部が分かりにくいので、特定メーカーの工法に頼り、使ってしまう。S造やRC造のようにオーソライズされた方法が無く、いろいろな設計ができることが木造の特徴であるのだが。
- ・計算プログラムがあった方がいいのかどうかは難しい所で、あると普及は進むと思われるが、理解が伴わないで設計をしてしまう危惧は生じる。住宅レベルの木造ではすでに計算プログラムはあるが、中大規模木造で使用できる計算プログラムの決定版は、まだ存在しない。

### (3) フォローアップ研修とアンケート

- ・各県にリーダーが揃ったので、地域のリーダーの方々の地域で行う講習会等の活動を行っていく方向とする。この講習会で先生方に参加してもらいフォローアップ研修を兼ね実施して行く。講習会の情報を発信して、その都度来てもらうようにする。
- ・地域での活動の中で、各自治体の発注情報も共有するなどして、受注業者の支援のみならず発注方法の助言もできればよい。
- ・フォローアップでのアンケート実施についてだが、人数が少ないのでメールのやり取りでアンケートは行うことができる。

### 3. 木材・木造建築物に掛かる担い手（学生）育成連続講座

現状として、林学や建築系大学等の高等教育の場は、木材の知識を備えた木造建築系、あるいは木造建築の知識を備えた木材系の人材を育成するための講座等は、ほとんど存在していない。したがって、木質材料や木材加工、木造建築といった職業領域の存在やその魅力を知らずにいる学生も多い。

こうした職域には、現在、文学や経済など他の専門分野を学んだ学生が、一般職として入職していることが多く、入社後に就業の中で実践的にこれらの分野を学び、木材、木造建築の知識や技能を習得している状況がある。したがって、知識の取得に時間を要するとともに、体系的な知識ではなく、仕事に必要とされている部分の知識であるため、専門領域や専門技術の幅が狭く、応用等が効きにくく、業界内でも展開や連携が行いにくい状況がある。

木材・木造建築の職域においてこうしたミスマッチをなくし、今後、さらに高度化が予想される中大規模木造建築の実務にふさわしい担い手を育成するために、以下の 6 つの地域において木造建築物に係る担い手（学生）育成連続講座を計画した。

結果的には、準備が整わず「北陸 NT」は実施に至らなかったが、他の 5 地区での開催となった。

- ① 東北NT（幹事：秋田県立大 板垣）  
参加大学：八戸工大、日本大（郡山）、秋田県立大、東北大
- ② 首都圏NT（幹事：東京都市大 大橋）  
参加大学：東京都市大、工学院大、日本女子大、芝浦工大  
理科大、日本大
- ③ 北陸 NT（幹事：金沢工大 後藤）  
参加大学：信州大学、金沢工大、富山大
- ④ 東海 NT（幹事：名古屋大 山崎）  
参加大学：名古屋大、三重大、岐阜高専、名古屋工大  
静岡大、岐阜森林アカデミー
- ⑤ 近畿 NT（幹事：京都大学 森）
- ⑥ 九州 NT（幹事：大分大 井上）  
参加大学：九州大、熊本県立大  
大分大、鹿児島大



### 3-1. 木材・木造建築物に掛かる担い手（学生）育成連続講座委員会

木材・木造建築物に係る担い手（学生）育成連続講座の開催に当たっては、各開催地域の幹事となる大学の先生による木材・木造建築物に係る担い手（学生）育成連続講座委員会を開催しその方向性や共通する講座内容等の検討を行った。

また、この委員会は、同時に開催している木材を用い、木の空間や利活用をテーマとした「木を活かす学生課題コンペティション」の審査委員会も兼ねており、審査委員会には、環境や防耐火の他の分野の委員を加えたものとなっている。

委員長	飯島 泰男	秋田県立大学名誉教授
委員	井上 正文	大分大学 工学部・福祉環境工学科 教授
	大橋 好光	東京都市大学工学部建築学科 教授
	白山 敦子	金沢工業大学環境・建築学科 講師
	山崎真理子	名古屋大学大学院生命農学研究科 准教授
	板垣 直行	秋田県立大学システム科学技術学部 教授
	森 拓郎	京都大学生存圏研究所 助教
コンペ審査外部委員		
	秋元 孝之	芝浦工業大学 工学部 建築工学科 教授

#### (1) 第1回 木材・木造建築に係る連続講座委員会

1) 日時 平成27年6月8日（月）13:00～15:00

2) 場所 (社) 日本治山治水協会 4階中会議室

#### 3) 出席者

委員長 飯島泰男

委員 井上正文、大橋好光、山崎真理子、板垣直行

行政 林野庁 木材産業課：西村紘明、

事務局 木を活かす建築推進協議会 永田 顕聖、松留 菜津子、櫻井 一也  
加来 照彦

#### 4) 議事

○ 今年度の木材・木造建築に係る連続講座事業について

- ・今年度の開催地域について関西での開催を考える
- ・参加者を広げる手法について全国の大学にポスター送付する等を考慮
- ・共通プログラム内容として、山から建築物までの内容を今年度も盛り込む方向とした

○ 木を活かす学生課題コンペティションについて

・部門の見直しについて

応募者の提出部門への勘違いについては、審査委員会が適切な部門での審査を行う旨を、応募要項に反映させる。

・広報について

雑誌や他のイベントでの広報に努める

・その他

来年度以降、林野庁の管轄コンペティションなので、WOOD DESIGNの学生部門として、取り込んでもらうことを働きかける。

(2) 第2回 木材・木造建築に係る連続講座委員会

1) 日時 平成27年9月1日(月) 13:30~15:30

2) 場所 木を活かす建築推進協議会 会議室

3) 出席者

委員長 飯島泰男

委員 井上正文、大橋好光、山崎真理子、板垣直行、森拓郎

行政 林野庁 木材産業課：服部浩治、西村紘明、

事務局 木を活かす建築推進協議会 永田 顕聖、松留 菜津子、櫻井 一也  
加来 照彦

4) 議事

○木材・木造建築連続講座の開催プログラム及び実施報告

- ・東北、首都圏、東海、近畿、九州よりプログラムの報告
- ・北陸のプログラムが遅れており、開催が難しい状況となった

○木を活かす学生課題コンペティションについて

- ・今年度も、昨年同様の内容で進めて行く方向
- ・全国の大学にまたポスター等で告知する

○全国発表会について

- ・日程を3月11日として場所等については今後告知

3-2. 各地域における木材・木造建築物に掛かる連続講座開催概要

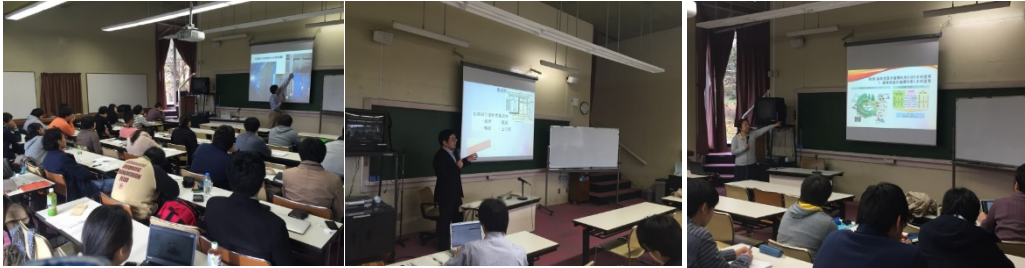
(1) 東北地域ネットワーク

実施体制	幹事：板垣直行 秋田県立大学建築環境システム学科 事務局：月舘敏栄 八戸工業大学工学部土木建築工学科 関野登 岩手大学農学部共生環境課程 内田信平 岩手県立大学盛岡短期大学部生活科学科 西脇智哉 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻 大沼正寛 東北工業大学生活デザイン学科 浦部智義 日本大学工学部建築学科
今年度は、「木の活用から木造建築の可能性を考える」をメインテーマに掲げ、以下の2部構成でセミナーが実施された。	
第1部 木のデザインと木材加工技術の実践	
場所	秋田県仙北市角館町花葉館ロッジ
日時	平成27年8月22日～8月23日
受講者	日大：18名、八戸工大：5名、秋田県大：41名
開催概要	講師：秋田県立大・板垣直行「木の特性を活かした構造とデザイン」 伊藤建友株式会社「木造加工技術の実践」 秋田公立美大・菅原香織「木でつくるデザイン」
	
第2部 木の活用と木造建築の可能性	
場所	福島県西白河郡 国立那須甲子青少年自然の家
日時	平成27年9月26日～9月27日
受講者	日大：8名、秋田県大：12名
開催概要	講師：東北工業大学・大沼正寛「東北の風土と木造建築」 日本大学工学部・浦部智義「地域の施設と木造建築」 法政大学・網野禎昭「世界と日本の木造建築」 はりゅうウッドスタジオ・芳賀沼整「木を活かした建築の設計」
	






(2) 首都圏地域ネットワーク

実施体制	幹事：大橋 好光 東京都市大学 事務局：川口 将広 東京都市大学大学院 八文字雅昭 工学院大学大学院
受講者	工学院大：15名、芝工大：6名、昭和女子大：13名 足利工大：6名、東海大：4名、東京都市大：11名、日大：23名、 関東学院大・東京工芸大・電気大・理科大・明星大：各1名
今年度は、「木造は、すごい、楽しい」をテーマに、以下のようにセミナーが5回実施された。	
第1回 木材と木造建築	
場所	工学院大学新宿キャンパス
日時	平成27年10月10日 13:00~16:45
開催概要	講師：大成建設・相馬智明「地球環境と木材・木造建築」 法政大学・網野禎昭「都市と木造建築」
	
第2回 木と生業（なりわい）	
場所	神奈川県小田原市内
日時	平成27年11月14日 13:30~16:45
開催概要	講師：東海大学・杉本洋文「小田原の木づかいを知る」
	

第3回 木材と木造建築	
場 所	工学院大学新宿キャンパス
日 時	平成 27 年 12 月 14 日 13:30~16:45
開催概要	<p>講師：芝浦工業大学・蟹沢宏剛「木造建築の職人と職能」            関東学院大学・神戸渡「触ってわかる耐力壁のはたらき」</p> 
第4回 江戸東京たてもの園に見る木造建築の変遷	
場 所	東京都小金井市江戸東京たてもの園
日 時	平成 28 年 1 月 5 日 14:00~16:45
開催概要	<p>講師：工学院大学・後藤治「木造建築の変遷」</p> 
第5回 環境・材料・構造	
場 所	東京都八王子大学セミナーハウス
日 時	平成 28 年 1 月 6 日 9:00~16:45
開催概要	<p>講師：足利工業大学・齊藤 宏明「木造住宅の耐久性向上のポイント」            日本大学・鎌田 貴久「エンジニアードウッドの使われ方」            昭和女子大学・中山 榮子「日本の林業と木造建築」</p> 

(3) 東海地域ネットワーク

実施体制	幹 事：山崎真理子 名古屋大学大学院生命農学研究科 事務局：山崎真理子 名古屋大学大学院生命農学研究科	
第1部 木造住宅に関する科学技術とデザイン演習		
場 所	岐阜県立森林文化アカデミー	
日 時	平成27年11月21日～11月23日	
受講者	森林アカデミー：2名、名古屋大：3名	
開催概要	講師：森林アカデミー・小原勝彦「木質構造の構法を理解する」 森林アカデミー・辻充孝「住環境に関する科学を理解する」	
		
第2部 中規模木造建築の防耐火性能		
場 所	名古屋大学農学部	
日 時	平成27年12月17日 18:00～20:00	
受講者	名古屋大：5名	
開催概要	講師：桜設計集団・安井昇「木造建築の火災メカニズム」	
		
第3部 木材の生産からはじまる中大規模木造建築の魅力		
場 所	伐採地から加工工場、木造建築物見学	
日 時	平成27年12月19日 9:00～18:00	
受講者	名古屋大農学：8名、名古屋大工学：13名、福祉大：2名	
開催概要	講師：設計計画連合・柳沢力「木材生産と木造建築」	
		



(4) 近畿地域ネットワーク

実施体制	幹事：森 拓郎 京都大学 事務局：瀧野敦夫 奈良女子大学 田淵敦士 京都府立大学 築瀬佳之 京都大学 村田功二 京都大学
今年度は、「木の活用から木造建築の可能性を考える」をメインテーマに掲げ、以下の2部構成でセミナーが実施された。	
第1回 木材加工技術と都市型中大規模木造	
場 所	大阪木材仲買会館、越井木材、トリスミ集成材
日 時	平成 27 年 11 月 14 日～11 月 15 日
受講者	京大：2名、京都府大：3名、近畿大：5名、奈良女子大：6名
開催概要	講師：竹中工務店・福本晃治「大阪木材仲買会館の設計と施工」 越井木材・山口秋生「木材処理と木造建築」 トリスミ集成材・奥田一博「集成材と木造建築」 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>
第2部 木材資源と CLT 建築	
場 所	おおとよ製材、高知県森林組合ビル、牧野富太郎記念館
日 時	平成 27 年 12 月 5 日～12 月 6 日
受講者	京大：6名、京都府大：5名、近大：4名、奈良女大：2名、関大：1名
開催概要	講師：京都府立大学・田淵敦士「森林と木材利用の現状」 銘建工業・田中「建物に働く外力」 鈴江設計事務所・鈴江章宏「木造ビルの設計と施工」 京都大学・村田功二「木材の強度」 京都大学・築瀬佳之「木造の劣化と対策」 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">    </div>

(5) 九州地域ネットワーク

実施体制	幹事：井上 正文 大分大学 事務局：田中 圭 大分大学 助教 末廣 香織 九州大学 准教授 北原 昭男 熊本県立大学 教授 四日所高志 福岡大学 助手 園田 一則 日本文理大学 教授
第1日 多様性を帯びてきた木造建築	
場 所	大分センチュリーホテル、大分市内各所
日 時	平成 28 年 1 月 9 日
受講者	九大：7名、福岡大：9名、熊本県大：6名、日本文理大：3名、大分大：21名
開催概要	講師：大分県農林研究センター・城井秀幸「国産木材の育林から製材まで」 瀬戸製材・瀬戸享一「森林から木造建築まで」 池見林産工業・久津輪光一「国産針葉樹内装材の挑戦」 ARUP・江村哲哉「大分県立美術館の構造設計」
	
第2部 木材資源と CLT 建築	
場 所	大分大学生協食堂、大分県立美術館、CLT 建築群
日 時	平成 28 年 1 月 10 日
受講者	九大：7名、福岡大：9名、熊本県大：6名、日本文理大：3名、大分大：21名
開催概要	

### 3-3. 木材・木造建築物に掛かる連続講座アンケート結果

#### (1) アンケートの概要と分析対象者

試行したセミナーに対する受講学生の反応等を知るため、アンケート結果を行った。設問項目は以下のとおり。

- ①専攻領域（希望も含む・複数選択可）
- ②木造建築への興味
- ③木造建築に関わる仕事への志向（現時点での希望）
- ④希望職種（複数回答可）
- ⑤セミナーに参加した感想
- ⑥セミナー参加費
- ⑦今後の参加
- ⑧このセミナーで得たもの（複数回答可）

その他、自由回答として、

- ⑨とくに興味を持ったテーマ
- ⑩セミナーへの要望・提案

以上のアンケート分析は社会人を除く学生・院生の有効回答者とし、工学系は1・2年生、3・4・院生、農学系は全学年（うち1・2年生は3名）に区分した。

#### (2) アンケート結果

アンケートの概要と分析対象者は前報に示した。その集計結果を下表に示す。表中の数値は回答率（%）である。

##### 2.1 専攻領域・木造建築への興味・進路希望

・設問①専攻領域：1～2年生では約半数が未決定。

	区分	回答数	構造系	材料系	環境系	計画系	未定
工系 1/2	A	9（首都圏 8、近畿 1）	22.2	33.3	22.2	11.1	44.4
工系 3/4/ 院	B	75（東北 11、首都圏 16、東海 1、近畿 6、九州 42）	38.7	28.0	2.7	33.3	2.7
農系	C	17（東海 4、近畿 11、九州 2）	41.2	58.8	5.9	11.8	5.9

- ・設問②木造建築への興味：「大変あり」「ややあり」が各区分とも 90%以上。
- ・設問③木造建築業種への志向：「是非就きたい」「できれば就きたい」が各区分とも高いが、就職間近の 3～4 年生でも未定率が高い点は興味深い。農学系の志向度はやや低い。

区分	②				③				
	大変興味がある	ある程度興味がある	あまり興味ない	全く興味ない	是非就きたい	できれば就きたい	特に就きたいと思わない	就きたくない	未定
A	44.4	55.6	0.0	0.0	11.1	44.4	0.0	0.0	44.4
B	54.7	44.0	1.3	0.0	22.7	41.3	10.7	0.0	25.3
C	41.2	52.9	5.9	0.0	23.5	29.4	11.8	5.9	29.4

- ・設問④希望職種：「施工系」と思われる建築・住宅関連が多い。工学系では「設計」も多いが「木材関連」「大工・工務店」との回答も少なくはない。農学系では「木材関連」が多く、研究職志望率は工学系に比べて高い。

区分	建築設計	建築関連	住宅関連	木材関連	ゼネコン	官公庁行政	研究職(官公庁)	研究職(民間)	大学院進学	教員(工業高校)	大学教員	大工・工務店	営業(金融)	未定
A	33.3	22.2	33.3	44.4	22.2	11.1	11.1	0.0	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1
B	38.7	33.3	32.0	20.0	24.0	10.7	0.0	0.0	14.7	1.3	0.0	8.0	0.0	4.0
C	23.5	41.2	29.4	41.2	0.0	5.9	23.5	17.6	23.5	0.0	5.9	0.0	0.0	17.6

## 2.2 セミナーに対する反応

- ・設問⑤セミナーの感想：「とても面白かった」「面白かった」を併せるといずれの区分とも大半を占める。
- ・設問⑥参加費：1～2年生で「高い」と感じている回答が多い。
- ・設問⑦今後の参加：「ぜひ参加したい」「できれば参加したい」併せるといずれの区分とも大半を占める。

区分	⑤				⑥					⑦				
	とても面白かった	面白かった	つまらなかった	とてもつまらなかった	とても安い	安い	ちょうど良い	高い	とても高い	ぜひ参加したい	できれば参加したい	あまり参加したくない	参加したくない	分からない
A	44.4	55.6	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	77.8	0.0	22.2	55.6	0.0	0.0	22.2
B	32.0	65.3	0.0	0.0	9.3	8.0	46.7	25.3	5.3	32.0	57.3	2.7	1.3	4.0
C	47.1	52.9	0.0	0.0	11.8	17.6	58.8	5.9	0.0	41.2	41.2	0.0	0.0	11.8

- ・設問⑧セミナーで得たもの：区分によってやや異なりが見受けられるが、総じて「木造建築の多面的理解」「木造建築への興味の深まり」「他大学の学生との交流」が高い。

区分	木造建築を多面的に考えることが出来た	講師と交流できてよかった	木造建築への興味が深まった	木材の組織や性質の興味が深まった	他大学の学生との交流ができてよかった	木造建築の新しい可能性が認識できた	他大学の活動を知ることができた	住宅や木材の生産システムが理解できた	地球環境と木材利用の関係が分かった	木材建築の担い手としての実感がわいた	その他
A	77.8	66.7	55.6	44.4	66.7	22.2	33.3	22.2	22.2	0.0	11.1
B	69.3	38.7	69.3	41.3	58.7	46.7	44.0	18.7	26.7	9.3	1.3
C	70.6	47.1	58.8	17.6	47.1	41.2	23.5	23.5	17.6	11.8	5.9

- ・設問⑨とくに興味を持ったテーマ（数字は回答数）

設問⑧の結果でもわかるように、実際の建築現場視察や欧州での実情を含めた中高層建築の現状（構造設計など）、CLT・種々の内装材など建築材料に関するテーマが多く、興味を引いていたようである。

### (3) アンケートの総括とセミナーへの要望・提案

以上のアンケート結果から、今回のセミナーは総括的にいって学生側にはきわめて好評で、講師・他大学との交流についても成果があったといえる。今後の参加希望度もかなり高く、企画意図であった「工農にまたがる大学間の連携のきっかけの形成」はおおむね達成できた。

セミナーのプログラムおよび参加学生層は開催地区ごとに多様であったため、とくに興味を持ったテーマ等は地区ごとにやや異なった傾向があるが、北陸・首都圏地区では「海外の木造建築」、近畿・九州地区では新築の中層建築物に対する反応が大きかったことは、木造建築の可能性を新たに感じたものと思われる。

今回、学生からの要望・提案で最も目立ったのは「他大学との交流の場を増やしてほしい」(12件)であった。具体的には「他大学が日ごろどのような活動をしているのかを知って自分を高めたい」「他の大学生がどのようなことを行っているか、もっと交流したい、班になってグループで話すとか」「講演会も、学生参加型にしてほしい(聞くだけではなくて)」「生徒が主体で行える活動」「林産系の学科と建築系の学科のギャップを埋める」といった意見もあった。

その他では「実験がもっとあると嬉しい」など「体験的」の学習・講義(6件)、「大学で教えてくれない授業」(3件)、他では「もっと他の地区を見たい」などもあり、次年度計画に反映させていく必要がある。

### 3-4. アンケートと同時に行った木力検定の結果

セミナー参加者の森林および木材等に関する知識レベルを知る目的で、井上・東原による「木力検定①」(海青社、2013)から16問を選び、解答を得た。

表 1.木力検定正答率および平均正答数

	N	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		人工林	間伐材	木材用途比率	木材需要量	炭素吸収源	森林蓄積量	森林面積	耐力壁
学生全体	244	66.0%	77.5%	27.9%	22.5%	81.6%	16.8%	48.0%	50.4%
同(建築系)	194	63.9%	74.7%	25.8%	22.2%	79.9%	15.5%	47.4%	51.5%
同(木材系)	42	83.3%	90.5%	40.5%	21.4%	88.1%	26.2%	52.4%	45.2%
同(その他)	8	25.0%	75.0%	12.5%	37.5%	87.5%	0.0%	37.5%	50.0%
非学生	26	80.8%	84.6%	42.3%	53.8%	92.3%	30.8%	50.0%	80.8%
正解		④	④	③	②	②	④	③	②
	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	平均
	木材呼吸	集成材	乾燥収縮	乾燥木材	熱伝導率	耐蟻性	生細胞部位	木材腐朽	
学生全体	77.9%	60.2%	73.8%	88.5%	35.2%	45.1%	58.2%	80.3%	9.0
同(建築系)	75.8%	59.8%	69.6%	88.1%	29.4%	40.7%	53.1%	78.9%	8.7
同(木材系)	83.3%	64.3%	92.9%	92.9%	66.7%	64.3%	83.3%	83.3%	10.8
同(その他)	100.0%	50.0%	75.0%	75.0%	12.5%	50.0%	50.0%	100.0%	8.4
非学生	92.3%	92.3%	80.8%	80.8%	42.3%	80.8%	76.9%	84.6%	11.5
正解	③	②	②	①	③	①	③	④	



検定は昨年度も実施していたため、昨年度の結果も併せ、正答率等を表1に示す。解答総数は270、うち学生・院生244で、学生・院生は専門別に建築系・木材系・その他（芸術系など）に区分した。

正答率が目立って低いのは木材用途比率(Q03)、木材需要量(Q04)、森林蓄積量(Q06)であり、木材用途比率では①、木材需要量では①、森林蓄積量では②の解答が最多であった。一方、「人工林」「間伐材」「木材中への炭素固定」「木材の呼吸」に関しては建築系でも正確な知識がかなり行き渡っているように思われる。専門による差では、木材系がやや高い傾向を示しているが、その差は極めて少ないと言える。

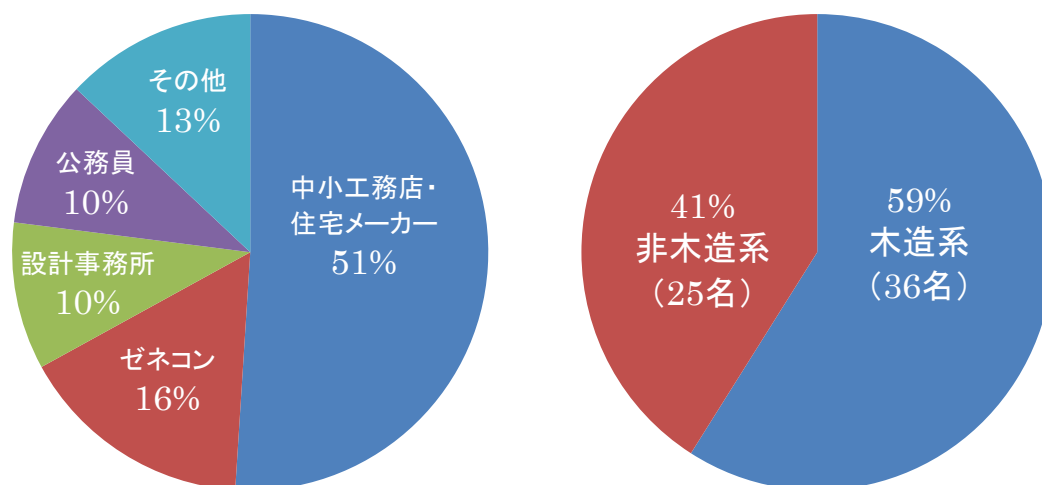
### 3-5. 木材・木造建築に掛かる担い手育成連続講座の今後に向けて

#### (1) 九州地域ネットワークにおけるこれまでの成果と受講生の進路

受講生にとって、日頃聞く機会があまりない話を聞くことのできる機会となったようである。2日目の現場見学でも、セミナーの話にもあった大分県立美術館だけでなく、普段あまり立ち入る機会のない工事現場の見学や実物大模型の見学による構造形式の違い、昨今話題のCLT建築物などの情報を聞くだけでなく実際に自分の目で見ることによって、理解も深まったようである。

また、学生同士のプレゼンテーションは学生同士の刺激となっただけでなく、のちの交流会の交流の糸口にもなったようである。

下図は本事業が開始された平成22年度から今回の開催までの間、6回すべてのセミナーに参加した大分大学及び熊本県立大学に在学する受講生すべてのその後の進路を調査した結果である。業種としては地元の中小工務店・住宅メーカーが抜きんでて多い。各業種ごとに木造にかかわる業務に就いているか否かを調査したところ、59%の受講生がなんらかの形で木造にかかわっていることが判明した。このことは、本セミナーの受講が木造に興味を持つきっかけとなった受講生がかなりの数、いることが窺える。このことは、本事業の狙いがある程度、果たされている証左ともいえよう。



これまでのセミナー受講生（大分大学及び熊本県立大学）の進路



今後の課題としては、さらに受講生数の増加や受講生同士の交流や輪を広げていくことが必要である。輪を大きくしていくために、さらに継続的な取組が必要であると考えられる。

## (2) 木材・木造建築に掛かる担い手育成連続講座の今後に向けて

学生向けの地域セミナーは、中大規模木造建築物を推進するために、現在は高等教育の中で行われていない木材・木造建築に係る基礎教育を行い、木造建築物への興味を持ってもらい、今後の木材・木造建築業界を担う優秀な学生が現れることを目的に、開催してきた。

平成 26 年度は、全国 36 大学の学生の参加を得て、東北、関東、東海、北陸、九州の 5 か所で開催し、延べ約 160 人の参加を、平成 27 年度は、全国 29 大学の参加を得て、東北、関東、東海、近畿、九州の 5 か所で開催し、延べ約 280 人の参加を得た。

現在大学では、各大学とも経営的に学部や学科の特色を持たせるために、学部の専門的な学業に専念させることを目的に、余分な単位の取得を制限する大学が増えて来ている。加えて、元来よりRC造やS造を中心とした一級建築士の受験に必要な教科以外を教えることは、困難な状況となっている。

したがって、現状の建築系大学において、一連の木造教育プログラムを単位化することは、難しいと考えられるが、来年度以降、これをどのように変えられる可能性があるか、単位取得（大学の中で15～30時間、事前学習と復讐と合わせて1単位に必要な学習時間は45時間）を念頭に置き、カリキュラム等の調査や教育プログラムの開発の検討を行う。

#### 4. 木を活かす学生課題コンペティション

##### 4-1. 木を活かす学生課題コンペティションの目的

これからの木造建築の技術を担う人材を育成する大学などの高等教育機関では「木材・木造建築」に関する専門的なカリキュラムは少なく、学生は木造建築との接点を持ちにくい環境となっている。

この状況を改善するため、一般社団法人 木を活かす建築推進協議会は、林野庁補助事業を活用し、大学等ではあまり行われていない木材と木造建築に係る教育を各大学等と連携して全国的・組織的に推進し、木材・木造建築に興味を持つ学生を増やすため、「木材・木造建築に係る連続講座」を実施する。

本講座は、伐採現場や製材工場、木造建築実例などの見学、木材加工や組み立て等の体験、座学やグループディスカッション、課題制作等を通じて「木」の建築・空間の魅力を発見していくプログラムとなっている。

本プログラムの一環として、「木を活かす学生課題コンペティション」を開催し、木造建築物・工作物の提案、木質化した空間に係る提案等を広く募集し、大学生等に建築材料としての木材・木質材料、構造形式の1つとしての木造に興味を持ってもらい学ぶきっかけとなることを目的として、「木を活かす学生課題コンペティション」を開催する。

##### 4-2. 応募作品

今年度は、木造建築物・工作物部門 4 点、ものづくり部門 5 点、木質化空間部門 3 点、木を活かす活動部門 2 点の剛検 15 点の応募があった。

応募部門	作品名	2. 応募代表者	学校名	専攻学科名
木造建築物・工作物部門	再編する縁-実測調査で得られた生活と木造住宅記録-	崎山 涼	工学院大学	工学研究科建築学専攻
	木のまちの輪廻	大内 真理奈	東京工業大学	建築学科
	透過する球体「人と人・人と自然との思考・対話の最小限の茶室」	野田 翔平	近畿大学	建築学部建築学科
	《Thinning Drive》-間伐を待つ樹木と空間デザイン-	神守 優二	札幌市立大学	デザイン学部デザイン学科 空間デザインコース
のづくり部門	一期一会のものづくり	石原 由貴	九州大学	生物資源環境科学府 環境農学
	組む・沈む・軽いツール	仲津 佑哉	金沢美術工芸大学	デザイン科環境デザイン専攻
	美山木匠塾 森と街をつなげる取組 ヤタイ「棧」	淡路谷 直季	京都府立大学	生命環境学部環境デザイン学科
	森のコトリ	田代 夏帆	文化学園大学	建築・インテリア学科
	秋田県立大学木匠塾サマースクール～こどもが集う木造遊具	志村 将宏	秋田県立大学	建築環境システム
木質化空間部門	Diagonal	立石 愛理沙	大阪市立大学	建築学科
	2m材の MATERIAL 利用「格子壁組換えられてオシャレでしょ」	志水 洗介	名古屋大学	農学部生物環境科学科
	浮遊する森	成 潜魏	日本大学	建築学科
	プライベートウッディカーテン	那賀 美咲	日本文理大学	工学部 建築学科
木を活かす活動部門	新たな生活のカタチ～大分県産材を用いた2×4工法によるタイニーハウス～	平岡 侑樹	大分大学	福祉環境工学科
	うすき竹宵×光のアート	山下 竜平	日本文理大学	建築学科

#### 4-3. 木を活かす学生課題コンペティション審査

##### (1) 審査委員

審査委員は、木材・木造建築物に係る連続講座委員会を構成する下記の委員に林野庁の木材産業課を加えたメンバーで構成された。

委員長 飯島 泰男 (秋田県立大学 名誉教授)

委員 板垣 直行 (秋田県立大学建築環境システム学科 教授)

大橋 好光 (東京都市大学 工学部 建築学科 教授)

白山 敦子 (金沢工業大学 環境・建築学部 建築学科 講師)

山崎真理子 (名古屋大学大学院 生命農学研究科 准教授)

森 拓郎 (京都大学 生存圏研究所 生活圏構造機能分野 助教)

井上 正文 (大分大学 工学部 福祉環境工学科 建築コース 教授)

林野庁 林政部 木材産業課 木材製品技術室

##### (2) 審査委員会

開催日時：平成 28 年 2 月 15 日(月)13:00～18:00

開催場所：木を活かす建築推進協議会 会議室

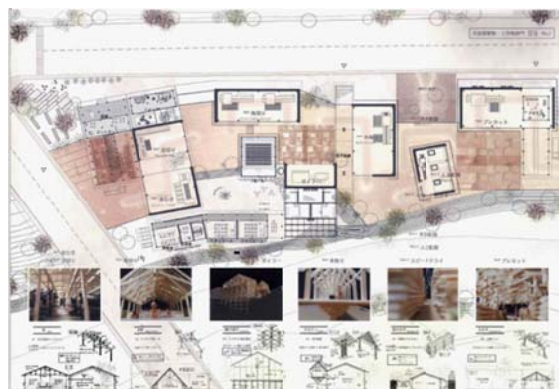
開催概要

選定は、各部門賞の選定から行われ各部門の上位に選定される作品を選定した。引き続き林野庁長官賞、木を活かす学生大賞、審査員特別賞が選定された。



##### (3) 受賞作品

① 林野庁長官賞 木のまちの輪廻 東京工業大学 大内 真理奈



講評：木材利用の中でも、国内では最も重要な課題の一つといえる「地域材活用」に着目し、学生自身が現場調査により肌で感じた問題点を軸に据えた作品である。林業、林産業（木材加工）、建築物に至る一連の流れを意識し、その体感空間を「木材利用促進を担う学びの場」として提案した点が評価された。提案書におけるプレゼンテーションも自身の構想を良く表現しており、作品としての完成度も優れている。今後は、こうしたコンセプトをもつ建築物を都市部（街なか）で如何に具現化するかということについても研鑽を積まれ、木材を活用した街づくりとこれによる森林・山間地域の活性化に貢献されることを期待している。

② 木を活かす学生大賞 秋田県立大学 志村 将宏他 こどもが集う木造遊具



講評：本作品は1998年から秋田県角館地域で活動している木匠塾メンバーによる遊具である。これまでも実際に活用できる作品を角館の地域住民の方々と相談し、地元の職人による技術指導を受けながら毎年製作が続けられており、大学の講義では得ることのできない貴重な体験になっている点でも、評価できる。

崎



③ 木造建築物・工作物部門賞 工学院大学 山 涼 再編する縁

講評：島の民家を対象として、独居の家をどうしたらよいか、という課題に回答を示したものである。一人には大き過ぎる民家を減築して、一人に相応しい空間とし、残りを集会施設として再生するものである。独居世帯は、今後、地方のみならず、都市部でも、ますます増えていくことが予想されている。課題設定や解決の方向性が、高い能力を示している。ただし、減築により中庭のできた集会施設について、その具体的な利用の姿が図面に表現されていると更によかった。また、学生作品にはありがちなことであるが、収納など2次空間が不足している。表の空間とバックヤードのメリハリがあると、より実現性の高い計画となったであろう。



④ ものづくり部門賞 京都府立大学 淡路谷 直季 ヤタイ「棧」



講評：地域の人たちの要望から発展し、地域の様々なイベントで活躍する“ヤタイ”。それが各地域の人々と学生とを繋いで、さらに木を活かしたものづくりの楽しさ、それを活用する喜びを伝えてくれているように思います。伝統的な木組みを応用したパーツの構成方法も素晴らしいと思います。屋台としての機能性、収納・運搬の合理性、様々な利用が可能な発展性、それらを兼ね備えた屋台へと更なる進化を遂げ、人々の生活の中で広く、そして長く使われていくことを期待します。

⑤ 木質空間部門賞 日本大学 成 潜魏 浮遊する森



講評：東京・青山の繁華な通りに面して建つ、一部が吹き抜けになっている木造5層の建物である。青山を実際に歩いたときに、子どもや高齢者が入りにくい建物が多いことに気づき、「誰に対しても親切的な、誰でも好きに入れる、誰でも好きな場所」をテーマに、人と自然が接することのできる豊かな木質空間をイメージしたという。年月の移り行きとともに人間の生活様式が変化しても対応できるよう、建物の壁や床を簡単に取り外せる構造になっているところが評価できる。構造を木造にしたメリット、グリッドの考え方や火災についてなど、より具体的な構造システムを提示し、「構造を含め成長する建築」について、さらに明快地提案してもらえれば、より良い作品になる。

⑥ 木を活かす活動部門賞 大分大学 平岡 侑樹他 新たな生活のカタチ



講評：国産材で生産可能となってきた 2x4 材を用いた木材利用の持続性にもつながる新たな建築への提案という本タイニーハウスへの取り組みとして本作品を評価したい。特に、木を活かす部門として重要と考える生産体制の明確化や実物があるという点も高く評価したい。また、新しい住まい方、本建築物の活かし方についても提案している点はおもしろい。ここに、より新しい活用方法などが見える形で提案されていれば、よりよかったと考える。

⑦ 審査員特別賞 日本文理大学 山下 竜平他 うすき竹宵×光のアート



講評：11月上旬に開催される大分県臼杵市で開催される「うすき竹宵」のイベントへ参加に際して、ロウソクの光と竹アーチを組み合わせた独自で作品などを展示する試みである。竹林の人工森林への浸食は大きな社会問題となっており、良質な木材資源の保護への関心を高める意味からも意義ある試みとして高く評価できる。また、ものづくりへの感性の醸成や共同作業を通じて、人の輪の大切さを実感したことは今後の社会生活への大きな糧となったことであろう。



## 5. 中大規模木造建築物情報提供シンポジウムと成果報告会

### 5-1. 木構造設計の地域リーダー育成事業成果報告会

今年度は、中大規模木造建築物情報提供シンポジウムとして木構造設計の地域リーダー育成事業の成果報告会を国土交通省補助事業である「サステイナブル建築物等先導事業（木造先導型）」の報告会と同時に開催した。

補助事業費を明確に分けるため、午前中に「サステイナブル建築物等先導事業」を、午後から「木構造設計の地域リーダー育成事業成果報告会」を行った。

開催は好評で募集を開始した平成 28 年 1 月 20 日の午前中で満席となり、多くの方をお断りしなければならなかった。最終的な参加者は、278 人となった。

#### (1) 開催日時・場所

開催日時：平成 28 年 2 月 16 日 13:00～16:30

開催場所：水道橋 すまいるホール

#### (2) 開催プログラム

##### I. 基調講演

「中大規模木造建築物の設計支援」

腰原 幹雄 構造設計地域リーダー育成委員会委員  
東京大学 生産技術研究所 教授

##### II. 事例発表

###### ① 「風と緑の認定こども園」

渡邊 須美樹 株式会社 木構堂 代表取締役

###### ② 「紫波町新庁舎および飯館村交流センター」

菅原 昭一 株式会社 久慈設計 構造設計部長

###### ③ 「マツシマ林工 製品倉庫」

中村 康一 中村建築構造設計 代表

###### ④ 「五条市総合保育園」

佐久間 譲 株式会社 TIS&PARTNERS ディレクター



## 5-2. 木材・木造建築に掛かる連続講座事業成果報告会

木材・木造建築に掛かる連続講座事業の成果報告会は、木を活かす学生課題コンペティションの表彰式と同時に開催した。

### (1) 開催日時・場所

開催日時：平成28年3月16日13:00～16:00

開催場所：新木場 木材会館6階ホール

### (2) 開催プログラム

#### I. 各地区成果発表

- ① 東北地域ネットワーク 工藤 春菜 秋田県立大学
- ② 関東地域ネットワーク 川口 将広 東京都市大学
- ③ 東海地域ネットワーク 小川 敬多 名古屋大学
- ④ 近畿地域ネットワーク 青山 剛 京都大学
- ⑤ 九州地区ネットワーク 植山 和輝 大分大学

#### II. 木を活かす学生課題コンペティション表彰式・発表

- ① 審査員特別賞 うすき竹宵×光のアート 山下 竜平 日本文理大学
- ② 木を活かす活動部門賞 新たな生活のカタチ 平岡 侑樹 大分大学
- ③ 木質化空間部門賞 浮遊する森 成 潜魏 日本大学
- ④ ものづくり部門賞  
森と街をつなげる取組ヤタイ「棧」 淡路谷 直季 京都府立大学
- ⑤ 木造建築物・工作物部門賞 再編する縁 崎山 涼 工学院大学
- ⑥ 木を活かす学生課題大賞  
こどもが集う木製遊具 志村 将宏 秋田県立大学
- ⑦ 林野庁長官賞 木のまちの輪廻 大内 真理奈 東京工業大学

